

真高寺だより

第21号 平成26年1月1日発行

発行所：真高寺（伊澤孝順住職）

住 所：市原市飯給1143

電 話：0436-96-0058

*発行責任者 根本 貞夫

*編集責任者 木村 孝一



(写真提供：山内憲章氏)

無事が一番です

総代会長 根本 貞夫



あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

私は現在、地元の民生委員として皆様のお世話になっております。民生委員となって色々なことを体験させていただいた中で、最近つくづく思いますことは、人様に面倒を見させて死ぬよりは、少しでも人様のお世話ができて死ぬたら幸せだということです。

ところで例年、市原市の文化祭は盛大に行われていますが、去年は施設の耐震化事業の影響で開催できる場所が限られたために期間延長となり、年を跨いで行われるそうです。

そうした中、昨年12月半ばに第30回となる市原茶道会によるチャリティー茶会が市民会館で開催されました。2階と3階の会場に一度に20～30人程の茶席が3席設けられ、佐久間市長さんも午前の早くから見えておりました。お茶の世界では、12月には一年無事に過ごせたことへの感謝を籠めて「無事」の掛軸を床に掛けるのだそうですが、この日も2席に「無事は貴人」と「無事は吉祥」の軸が掛けられていました。お茶の世界も私たち禅宗の仏教世界と随分近いものだ実感しました。年の初めにあたり、今年一年、どうか共に無事でありますようお願い申し上げます。

合掌

道元禅師のおことば

「生にともならざることなし」(全機)

おことばの意味

「ありがとう」を日々の口癖にしましょう。

突き詰めれば、私たちの体は大宇宙の生命体（仏性）で満たされています。ですから、日々、生かされていることへ感謝していると、段々に命の活動力が増えてきます。

ところが驕りたかぶり、自惚れたりばかりして、生かされていることへの感謝の心を忘れてしまうと、次第に命の活動力が低下してしまいます。仏性の根本である宇宙は見ることも出来ず黙っているのです、何も知らないと思ったらとんでもないことです。大宇宙の生命体である仏性のありがたさを知って、「ありがとう」を口癖にし、生かされていることに日々感謝することです。

新年を迎えるにあたり

住職 伊澤孝順



明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、どのような新年を迎えられた事でしょうか。人によっては、儀式張らず自由で快適な新年を迎える人も多くなって来ました。

ところで、「改歳の令辰」という言葉がありますが、それは、心を改めて一年の出発の覚悟を意味します。改めて一年の祈願を神社仏閣に初詣しますが、「初詣」とは、本来生まれた土地の産土神様や住んでいる氏神様にお参りして、新年の無事と平安を祈願するものでした。また、今でも「年ごもり」と言っ、て、一家の主人が大晦日に氏神様の社にこもり、徹夜で家族の無病息災を祈る風習もあります。また、その年の恵方（縁起の良い方角）に当たる方角の神社仏閣に参拝する恵方参りも初詣の原型と言われています。初詣にこめる思いは、家内安全・無病息災・学業成就ですが、改歳の思いは、過ぎ去った一年やこれまでの人生を仏の教えに照らして、良い生き方をして行こうと誓うことです。

真高寺においても、元旦、新年祈禱会を参拝者と共に、皆様が心安らかに過ごせるよう念じ行っています。

山内あれこれ

佐久間作衛さん、お世話になりました



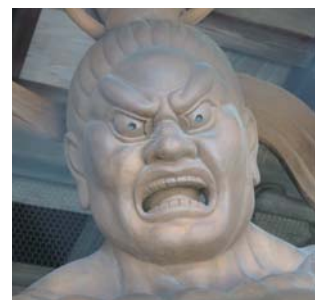
昨年春まで総代を務められた、万田野の佐久間作衛氏が11月2日にご逝去されました。あらためて心より、覚峰院作宝慈徳禅居士霊位のご冥福をお祈り申し上げます。

佐久間氏は先代渡辺住持の頃より、中心的な総代として長くご尽力され、特に現伊沢方丈に代わられての山門大改修の事業時には、勧募委員と仁王様・境内外整備部会長として大いにご貢献下さいました。

目が入りました。作衛さんありがとうございました

気が付かない人も多いかと思いますが、昨年の秋に山門の仁王様に黒目が入りました。

これは11月に亡くなられた佐久間作衛さんが、生前いつも「仁王様に黒目がなくても良いものでしょうか？」と言われておりました。そして春に総代を辞任された際に、ご本人から「必要な費用はすべて負担するから」との強い申し出を受けて、夏の総代役員会で全員が了解して実現したものです。本当に最後の最後までお世話になりました。



新米をありがとうございました

四人の皆様から美味しい新米を奉納していただきました。改めて心より感謝申し上げます。



松本貞良 様	平成25年8月20日
大沼 勇 様	〃 8月28日
花澤 基 様	〃 9月 2日
松本金蔵 様	〃 9月 7日

山内大掃除に大汗でした

8月10日、例年のように総代役員15人で、山内の草刈を行いました。

猛暑の中、それでも涼しい午前中にと、けたたましい刈り払い機の音で仁王様も驚いた様子。養老地区の元役員の河邊正利さんもこの奉仕活動に参加してくださいました。おかげさまで15日の山門施食会も無事に催行することができました。



梵鐘の音も一段と冴えわたります

9月28日、古くなった梵鐘の鐘木を取り換えました。総代の花沢基さんと何でも知っている指示役のMさんとで新しい棕櫚の木を寄贈した上で、古い鐘木を撤去し新しい鐘木が取り付けられました。お蔭で毎朝の鐘の音が実によく冴えわたります。除夜の鐘の音が一層遠くまで聞こえるようになりました。

崖崩れが何カ所も起きました

10月16日の台風26号で、庫裏脇の駐車場の裏山の高さ20メートルの土手の一部が崩れ落ちました。この土砂で建物への実害はありませんでしたが、駐車場裏の行き来が出来なくなりました。そこで杉田建材さんをお願いして12月2日に撤去してもらいました。

崖崩れは他に、第二駐車場のある北側の崖と馬頭観音の後側の土手でも起こりました。



参道脇の樹木を伐採しました



12月半ば、3日間ほど掛けて参道脇の桜やヒノキ等の樹木9本を伐採しました。これは桜等の根が参道の水路や路面に障害を与えるようになってしまったからです。また桜はテングス病で花の付きがすっかり衰えてしまいました。しばらく寂しくはなりますが、直に立派な桜の参道に再生させます。なお、伐採に当たっては、万田野の仲村文次郎さんが難しい仕事を引き受けてくれました。なお使える部材は製材したりし、使えない部材は全て自慢のチップ化する機会できれいに始末してくれました。

いつもいつもありがとうございます

昨年の総代会議で参道脇の桜の木を伐採することとなりました。しかし根本会長がその後を心配されて、自分の山に植林してある7年物の枝垂れ桜を寄進してくれることとなりました。この移送と植樹などに当たっては、どのような特殊車両でも運転資格を持っている石渡与一郎さんが、「俺に任しておけ」と明言されました。もっとも年末の役員忘年会の席でのことですが……。



春のアート×ミックスではさらに大勢の人が

山門の下に参拝者芳名帳の見学者ノート置いてあります。ここに市内外から見えられた方々のお名前等が記されています。

平成25年	4月	7日	ガールスカウト千葉県第65団
	4月	21日	伊八会 当門隆世 様
	7月	10日	市原市 楡の会
	〃	16日	〃 椎の木台長寿会
11月	9日	木更津市	きさらづガイドボランティアの会 (21名)
12月	2日		房総の会 (女性教師20名)
〃	5日	市原市	南総公民館主催「生き生き大学」(30名)
			「田所真先生による山門の説明」
〃	7日	市原市	有秋公民館 (37名)
			「松本靖彦先生による山門説明」

なお、この他にノートに書かれていた個人見学者は約150名でした。今年の3月21日から5月11日まで「中房総国際芸術祭・市原アート×ミックス」が加茂地区を主要な会場として開催されます。取り分け里見小学校がその中心的な窓口となるようです。真高寺にも沢山の皆さんが、参拝・見学に訪れるものと思われます。



市道の拡幅をお願いしました



柿木台地先の県道から真高寺方面へ通じている市道は、大型バスなどの進入が困難です。

そこで加茂地区町会長会の口添えも得て、飯給町会長名で市役所に拡幅要望を昨年秋に提出しました。市から早速現場を見にきてくれて、対応策を検討しますとの返答を頂きました。

全面拡幅とはならないまでも、途中に何か所かの待避所を設けることでも助かります。

新年祈禱会で福達磨のプレゼント

恒例となりました新年祈禱会が、大晦日の除夜の鐘に続いて午前0時より本堂で執り行われます。段々に参加者も増えてきましたが、今年も福達磨50体を用意して参加された皆様に新年の福として無料でお分けしております。12月30日朝7時よりお寺の第一駐車場で古い達磨やお札、塔婆などを一緒に焚き上げますので、どうぞご持参下さい。



編集後記

年末恒例の役員忘年会が東飯給の八百寿司さんで行われました。会に先立ち全員起立して、昨年11月2日に亡くなられた佐久間作衛さんに黙祷を捧げました。伝え聞くところでは肝臓の病が悪化してのご逝去とのことでした。思い返せば一昨年夏の山内大掃除の草刈にも、病を我々には伏せて参加されていたのでしょうか。いつも品のある穏やかな語り口ではありましたが、筋目の通った情熱を常に心に感じておりました。編集子である私も十数年来お世話になり、生涯忘れることの出来ない恩人でありました。ありがとうございました。

「佐久間作衛氏の逝去を悼む」

まだ話尽きざる石落^{つわ}の別れかな 傘休